

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立勸興小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

平成 29 年 4 月 18 日(火)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

#### ■ 調査結果及び考察について

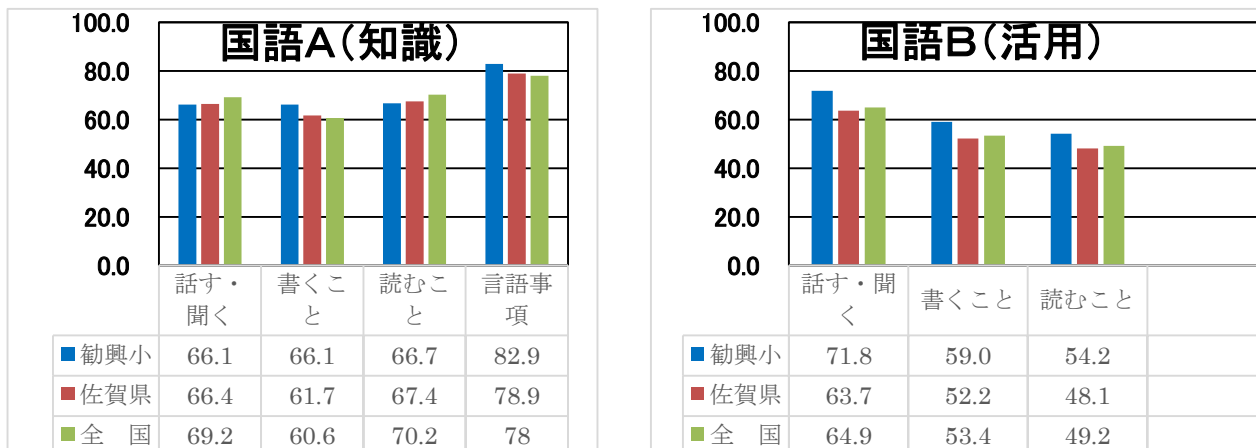
全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



国語 A(知識)では、「書くこと」「言語事項」に関しては、全国や県を上回っているものの、「話す・聞く」「読むこと」では、全国を下回る結果であった。話し合いを通して、俳句のよさを選ぶことができていない児童がいたことが要因として考えられる。

国語 B(活用)を見てみると、「話す・聞く」「書くこと」「読むこと」すべての領域で全国や県を上回っていた。記述式の問題の無回答率が低かったことも平均を上回った要因と考えられる。

#### (2) 成果(O)と課題(△)

##### 話す・聞く

○授業や行事等で話を集中して聞き、知りたいことを落とさないようにしながら相手の話を聞く学習訓練の成果が少しずつ表れているので、継続して指導していく必要がある。

△互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことの問題で正答率が低かった。授業の中での話し合い活動「かいわタイム」に視点の持たせ方を工夫し、意図を持って取り組ませる活動にしていく必要がある。

##### 書く

○目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことの正答率が高い。これは、日頃の授業の中で自分の考えを書く活動の時間を取ったり、感想や振り返りを書かせたりする場面を取り入れている成果と思われる。

△物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることは、正答率が高い。しかし、無回答率も高く「書く」活動を授業の中で計画的に仕組み、個別の指導を図っていく必要がある。また、手紙を書く際の構成を理解させたり、条件作文等に取り組みせ書くことの日常化を図ったりしていく必要がある。

##### 読む

○登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える正答率が高い。これは、授業の中で心情を捉える学習場面で読みを深めたり、気持ちを書かせたりする活動の成果と思われる。また、読書を奨励し、読書の時間を確保して、いろいろな本に触れさせていることも要因だと思われる。

△俳句の情景を考えて読む正答率が低い。俳句の学習の時間には、情景を絵で表現したり、ことばの持つ意味を調べさせたりする活動を取り入れて、俳句のよさや国語の美しい響きを感じ取らせる学習を仕組んでいく必要がある。また、自分の考えを明確にする場合には、自分の知識や経験などに関連づけながら、自分の立場からどのように考えるか意識して文章を読ませたい。

##### 言語事項

○学年別に漢字配当表に示されている漢字を正しく書いたり、読んだりする力は、朝の時間の「すくすくタイム」や家庭学習等の成果が表れて正答率が高い。

△語彙や語句を獲得するために、国語辞典や漢字辞典を使って調べる活動の取り入れていく必要がある。文章を書く際に、同音異義語に注意して書く習慣付けを図る。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 朝の読書や読み語りに取り組むことで、本に親しんだり、落ち着いて学習に臨んだりできるようにします。
- 授業をはじめ様々な行事などでも、考えを表現し意見交流する場を数多く設定し、相手の話の主旨を正確に捉え、自分の意見を表現できるコミュニケーション力を高めていきます。
- 自分の考えをノートに書き表す場面では、相手に伝える意識を持たせ、より分かりやすく考えをまとめる力の習得をめざします。

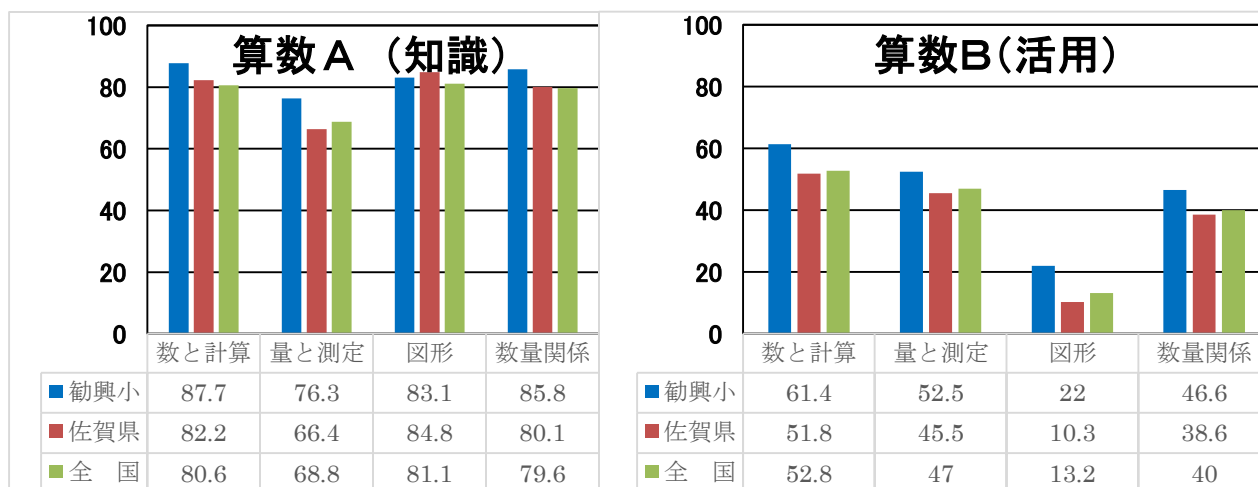
#### 【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書のジャンルを広げてあげましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろ本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

## 2 算数

### (1) 結果

### 全国正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題では、「数と計算」「量と測定」「数量関係」に於いて全国・県平均を上回っている。図形領域を見てみると、立方体の展開図から平行な面を選ぶことができなかった結果が出ている。

活用力を問うB問題では、すべての領域で全国・県平均を上回っている。

### (2) 成果(○)と課題(△)

#### 数と計算

○問題に示された二つの数量関係を一般化して捉え、そのきまりを記述したり、示された資料から必要な数値を選び答えを導き出したりする正答率が高い。また、小数の乗法の計算において、乗法の性質の理解や加法と乗法の混合した整数と小数の計算の正答率が高い。TTの授業や少人数授業で自力解決の時間を確保し、個別の支援を行っている成果と思われる。

△公式や単位のきまりを定期的に確認する。チャレンジタイムや単元末の練習学習の時間を通して、習熟に努める。

### 量と測定

○自力解決の時間を確保し、図・式・ことばで書く活動を多く取り入れている成果が表れて正答率が高い。  
△任意単位による測定についての理解が低い。表を見て理由を記述する問題など、記述式の問題に弱い傾向が見られる。量感をイメージする力が必要である。

### 図形

○三角形や平行四辺形等の図形では、底辺と面積の関係の正答率が高い。授業の終末に適応問題を多く取り入れて習熟を図った成果だと思われる。  
△立方体の面と面の位置関係や多角形の構成要因の理解など図形認識の正答率が低い。また、無回答率も高くなっている。図形の見方を一つだけでなく、多様な見方ができるように具体物を通して指導していく必要がある。

### 数量関係

○商を分数で表したり、最小公倍数を求めたりすることや資料を分類整理する正答率が高い。練習と習得を繰り返す「すすくタイム」の効果が大きく子どもたちの自信になるよう継続したい。  
△示された式の中の数の意味を表と関連づけたり、割合を比較するという目的に適したグラフを選んだりすることの無回答率が高い。また、基準量と比較量の関係についての判断の無回答率も高い。そこで、正しく問題を理解するために問題文を、図・式・ことばを使って表す自力解決の時間を大切にしていける必要がある。

## (3) 学力向上のための取り組み

### 【学校では】

- 金曜日の朝のチャレンジタイムでは、全校で国語と算数の基礎・基本プリントに取り組みせ学力向上を図ります。
- 高学年では、月曜日の朝「すすくテスト」に取り組みます。前の週に課題を宿題に出し、月曜日の朝実施、火曜日の放課後には、再テストをして習熟を図ります。
- 授業では、友だちの意見を繰り返し言ったり、言い換えたり、付け加えたりまとめたりする言語活動を多く取り入れ、みんなで理解を深める話し合い活動を全学級で実践します。
- 「かいわタイム」の視点の持たせ方を工夫し、授業の中で「話し合い活動」に意図を持って取り組ませていきます。

### 【ご家庭では】

- 「家庭学習がんばり表」の中の「時間や場所を決めて学習すること」は、勉強する習慣をつけ、集中力を培うことに繋がります。場所は、学習机でも食卓でもいいですので、その場所に同じ時間帯に座る習慣をつけることが大事です。
- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、問題を解くのにどれくらい時間がかかっているのかを知るために、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そして、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてあげましょう。

## 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

### (1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	91.5	91.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	89.8	79.8

朝食を毎日食べていますか。	96.6	95.4
平日2時間以上テレビを見る。	47.4	55.7
平日2時間以上ゲームをする。(TVゲーム・パソコン・携帯型等も含む)	18.7	31.1
平日読書を30分以上している。	42.3	36.5
平日1時間以上通話やメール、インターネットをしている。	11.9	20.5

起床・就寝・朝食については全国平均を上回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできているようである。実際、家庭の協力のおかげで6年生の遅刻は少ない。

テレビやゲームについても、全国平均より良い結果であったが、中には長時間のテレビやゲームをしている児童もいるようである。

読書については、30分以上読書をしているが全国平均を上回っているが、全くしない子もいる。携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている子が全国平均に比べると少ないが、トラブルにならないための指導が必要である。

#### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	32.3	24.6
平日1～2時間未満勉強している。	28.8	24.3
平日0～1時間未満勉強している。	6.8	11.4
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	96.6	96.9
家で、授業の予習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	47.4	41.0
家で、授業の復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	67.8	53.8

学習時間は、約32%の児童が2時間以上と答えているものの、個人差が大きいと考えられる。

学習内容については、宿題をしている子が96.6%と全国平均並みだが、予習・復習をしている子が全国平均を共に上回っている。学習時間・内容を見ていると学力の2極化傾向が見られる。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」等を基本に宿題を出します。自主学習(自学)についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示する等して定着しつつあります。これから、低・中学年にも少しずつ広げていきたいと考えています。
- 学習の「振り返り力」を高めるために、「めあて」に沿った振り返りの視点や判断する基準を明確にして、いろいろな教科で取り入れていきます。

##### 【ご家庭では】

- 新聞を読んでいる子が少ないようです。ご家庭で新聞を購読されているところは、子どもにも読めそうな記事を読ませたり、話題にしたりすることで社会にも目が向くようになってきます。
- 早寝・早起きの習慣、朝ご飯を食べる習慣、学習する習慣は、中学校に向けた習慣として大切なことです。ご家庭のご協力を一層宜しくお願い致します。